

イラク情勢と日本の復興支援

外務省参与

イラク復興支援等調整担当大使

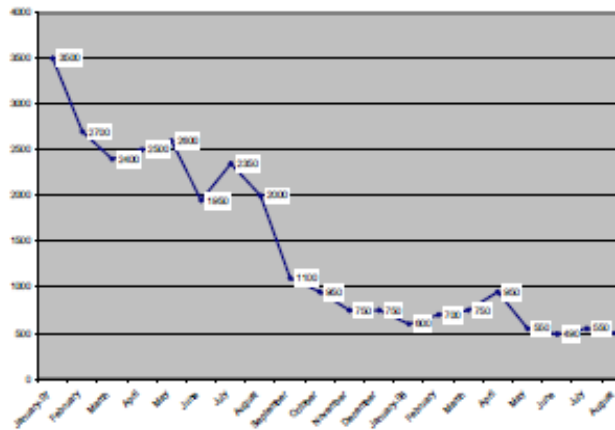
小川郷太郎

最近のイラク情勢

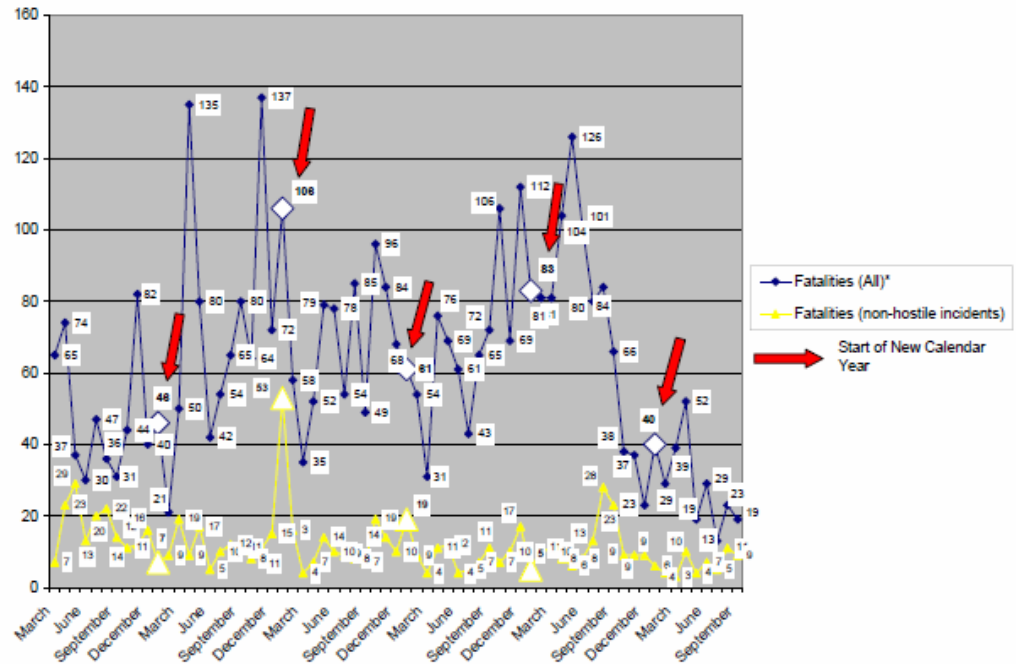
- 治安：全体として改善
：地域で差
：まだまだ危険
- 政治：国民融和は「遅々として進んでいる」
：石油関連法は未成立
：背景に地域・宗派間の利益配分問題
- 経済情勢：石油収入→国家収入が著増
：経済成長、復興需要の始まり
：「イラクはもう貧しくない」
：電力等国民生活面では困難

治安情勢の推移

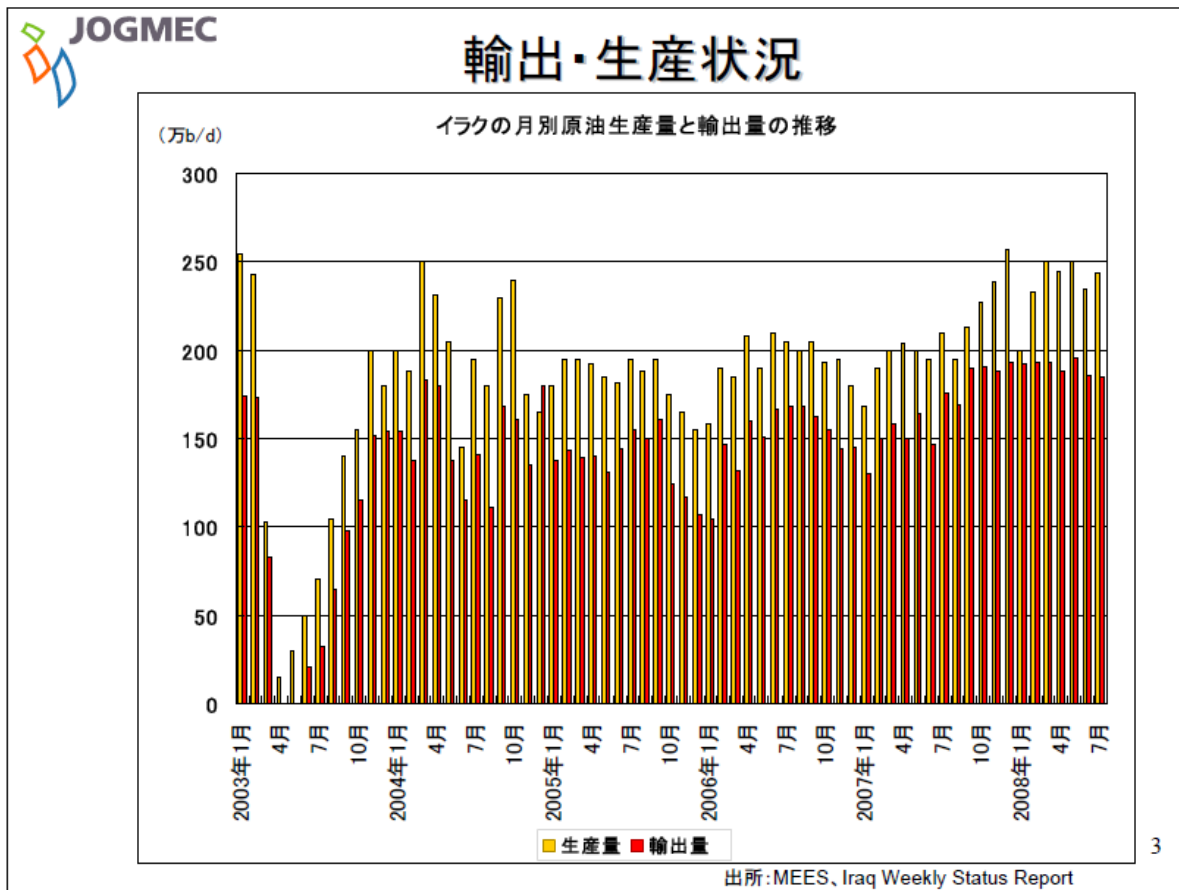
JANUARY 2007-PRESENT⁴



U.S. TROOP FATALITIES SINCE MARCH 19, 2003²³



最近の原油産出量と輸出量の推移



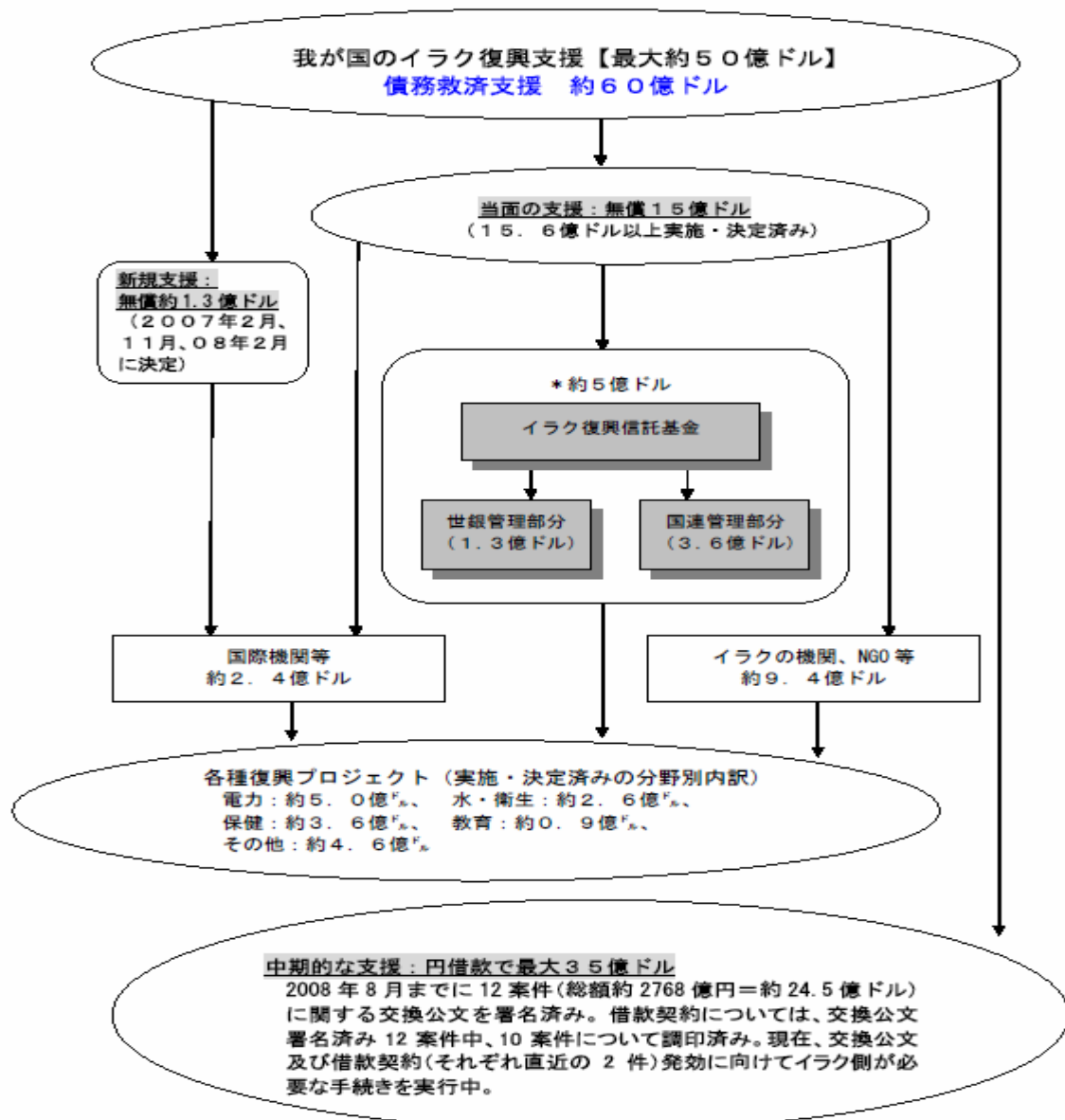
イラクをめぐる国際関係

- マドリッド会議(2003年10月)
- イラク・コンパクト発足(2007年5月)
- 欧米諸国、周辺国の姿勢
- 多国籍軍の現状:二国間駐留協定に移行
- イラクの対外パーセプション
- アメリカの姿勢と受け止められ方
- 我が国の位置

国名・機関名	プレッジ額（百万米ドル）
アメリカ	18649.00
日本	5000.00
クウェート	500.00
サウジアラビア	500.00
イギリス	452.00
イタリア	235.62
スペイン	220.00
U A E	215.00
韓国	200.00
カナダ	187.47
カタール	100.00
トルコ	50.00
オーストラリア	45.59
スウェーデン	33.00
デンマーク	26.95
中国	25.00
チェコ	14.66
ノルウェー	12.87
インド	10.00
I M F	2,550.00～4,250.00
世界銀行	3,000.00～5,000.00
総計	約33,000.00

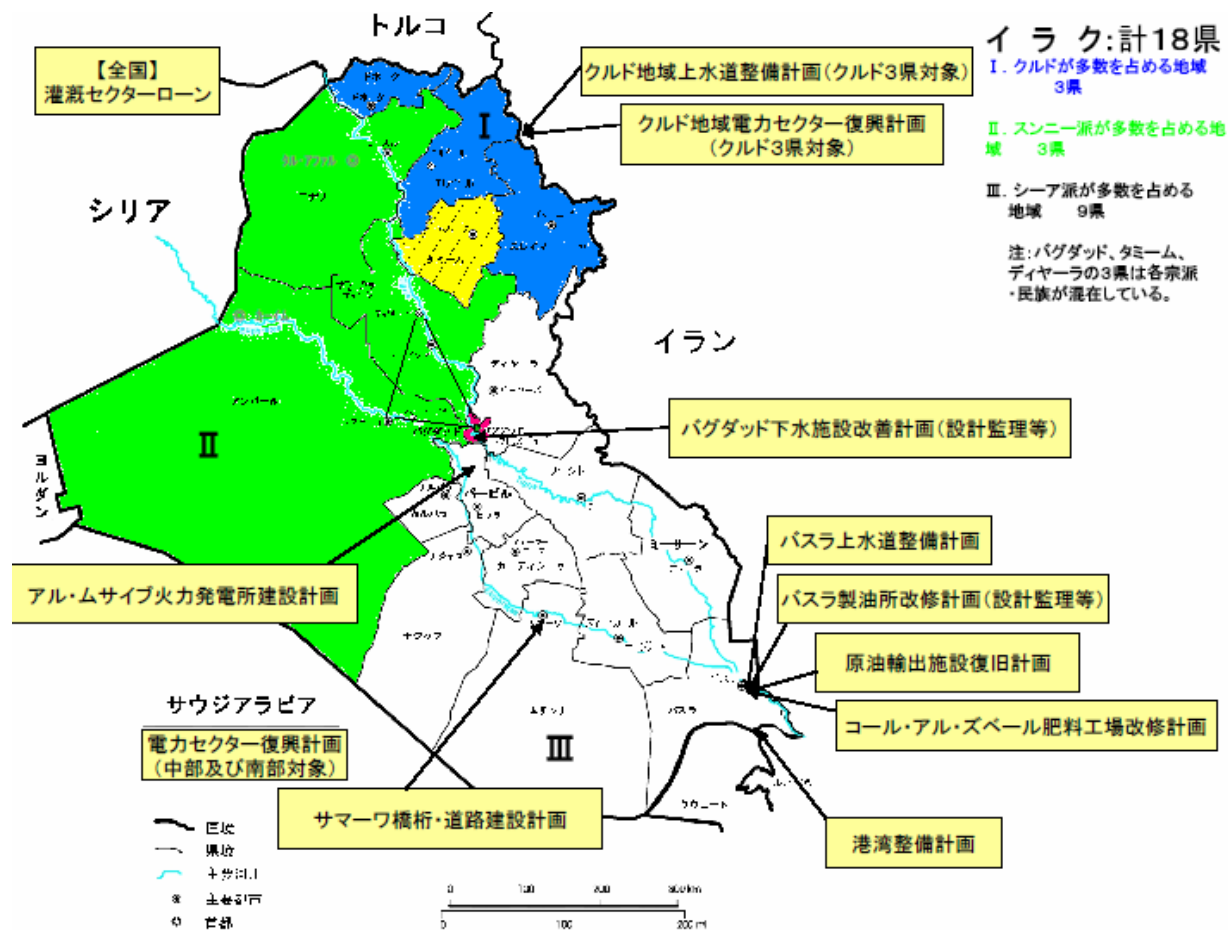
日本の復興支援の概要

- 無償資金協力
- 有償資金協力
- 技術協力
- 債務救済
- 国民和解支援
- 自衛隊の活動
- (今後)貿易・投資関係強化



* 国際金融公社 (IFC) の小規模事業金融ファシリティ (0.1億ドル) を含む
(注) 供与額は概算

円借款案件分布図



我が国の復興支援の評価

- 特色ある支援内容：
非軍事、大規模、多様、経済的意義
- イラク側の評価：
経済的効果への期待
日本への絶大な信頼感、親近感
- 第3国の受け止め方：
米英等：イラク安定への寄与→協力
仏等：「他の国にはできない支援」

復興支援実施上の問題点

- 治安情勢→遠隔操作、効果の測定・確認、協議の場所、フォローアップ
- 大使館の態勢
- イラク側の問題：行政能力、議会、宗派性、地域主義
e.g. 円借款実施の遅れ

新たな要素と復興支援の方向

- 治安、政治、経済の展望
- 米・イラク関係の方向とその影響
- イラク政府の自信と新たな姿勢
- 不確定要素：石油法、選挙、クルクーク問題
- 各国の競争的イラク市場参入
- 支援からパートナーシップへ：「キャパビルと貿易・投資のパートナーシップを」
- 「日イラク・ビジネス・フォーラム」推進

結語：我が国は何をなすべきか

- 目標：現在の好位置の保持・発展
イラクの復興への貢献
日イラク関係の発展
日本の経済利益確保
- 具体策：円借の継続
キャパビルの新展開
日本企業のイラク市場参入促進
二国間戦略的枠組みへの合意
- 課題：新たな状況に新たな発想を
両国間のパーセプション・ギャップ克服